

へきけんニュース

ホームページ https://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
 メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
 ☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292



背景は北海道教育大学旭川校

へき地校体験実習報告会を実施しました！

北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
 へき地教育アドバイザー（旭川校） 田中 和敏



本年度の旭川キャンパスにおけるへき地校体験実習は、9市町村25校、59名の予定でしたが、コロナ感染拡大の影響等で中止や辞退者が出たため、4年生7名、2年生43名、計50名が24校での実習に参加しました。

12月18日（土）には報告会を実施し、南富良野町立南富良野西小学校、富良野市立樹海小学校、中頓別町立中頓別小学校、富良野市立麓郷中学校、士別市立上士別中学校の報告をもとに交流を行いました。

当日は、旭川校の渥美伸彦先生、勝本敦洋先生、芳賀均先生、へき地・小規模校教育研究センターの川前あゆみ副センター長、加藤雅子札幌校アドバイザー、荒川浩一釧路校アドバイザーにも出席いただき、有意義な報告会とすることができました。



▲へき研センター
旭川校 渥美代表



▲（左）荒川アドバイザー
（右）加藤アドバイザー

学 校	受講者数			学 校	受講者数			学 校	受講者数		
	計	2年	4年		計	2年	4年		計	2年	4年
1 占冠中央小	4	3	1	9 南富良野小	2	2		17 名寄市 智恵文小	2	2	
2 占冠中	3	2	1	10 南富良野西小	3	3		18 名寄市 中名寄小	2	2	
3 山部小	2	2		11 中富良野町 西中小	1	1		19 美深町 智恵文中	3	3	
4 樹海中	2	2		12 中富良野町 旭中小	1	1		20 美深町 美深中	2	2	
5 富良野市 布礼別小	2	2		13 士別市 宇文小	2	2		21 中頓別町 仁宇布小中	1		1
6 富良野市 鳥沼小	1	1		14 士別市 上士別小	3	3		22 中頓別町 中頓別小	2	2	
7 富良野市 麓郷小中	2	2		15 士別市 上士別中	3	2	1	23 中頓別町 中頓別中	2	2	
8 富良野市 樹海中	2	2		16 旭川市 朝日中	1		1	24 旭川市 東川第二小	2		2
								合 計	50	43	7

▲実習校一覧

1 報告の概要（実習に関する報告の要点と気づき）

①南富良野西小学校

【実習の目的】

- ・へき地校の魅力や工夫について学ぶ
- ・複式学級における授業や教材の使い方などについて学ぶ
- ・児童の適切な関わり方について学ぶ
- ・地域独自の取り組みや、学校・保護者・地域の連携について学ぶ

【教壇実習】

- ◎全実習生が複数回の教壇実習を体験
- ◎教壇実習からの学び
 - ・理解度の差を考慮した授業づくり
 - ・児童を「待つ」こと
 - ・子どもを知ると言うことの意味と重要性
 - ・ICT機器を活用した授業の在り方
 - ・教具を工夫する重要性

【実習を通して学んだこと】

- ◎少人数であるため、一人ひとりにあわせて授業を行うことができる
- ◎リーダー学習で「主体的に学習に取り組む姿勢」を身につけられる
- ◎ICT機器の導入により、間接指導をより充実させる可能性がある

2) 南富良野西小学校について

○自然豊かな地域

○自然を活かした教育活動
→農園活動
→マラソン大会



4) 教壇体験について

○1・2年生学級で3回の教壇体験

理解度の差を考慮した授業づくり

児童を「待つ」こと

子どもを知ると言うことは??



児童が考え、表現しながら学ぶ授業!

②樹海小学校

【受講の動機と抱負】

- ◎高3の時、パンフレットで知り、小規模校出身でもあったので、早くから決めていた
- ◎へき地教育論を受講し興味関心が高まった
- ◎北海道で教員になったときには、へき地校で勤務する可能もあるから
- ◎学校現場を見て、感じて、経験して「教育の原点」とは何かを学びたい
- ◎子どもたちの実態を知りたい

【授業観察から】

- ◎一般的な「わたり・ずらし」だけではなく、一方の学年に重点を置いた学習も行われていた
- ◎単元を入れ替えるなどの工夫もされていた
- ◎児童の実態に合わせた授業が行われていた
- ◎1年生のうちから複式授業における主体的な学習に向けた学習リーダーの育成などの指導が行われていた
- ◎iPadが文房具の一つとして日常的に使われていた
- ◎教科書はあくまでも学びの補助である

【来年4月からの義務教育学校へ向けて】

- ◎先生方はまだ具体的なイメージが持っていない様子
- ◎9年制に向けたカリキュラムの編成を進めていた
- ◎校舎・教室の増設・整備が行われていた
- ◎中1ギャップの解消等への期待をしていた
- ◎小学校5・6年生のリーダーシップ発揮場面の減少への危惧がなされていた

1. はじめに（動機と抱負）

- ・へき地教育論の講義から
- ・教員になるために
- ・小規模校出身だから
- ・「教育の原点」の解明（そもそも教育の原点とは？）
- ・現場の様子（子どもたちとの関わり）を見て触れ合って経験したい!!

2. 実習校の環境と様子

義務教育学校に向けて

- ・カリキュラム編成
→9年制へ
- ・教室の増設・整備、校舎の増築
- ・新校歌お披露目
- ・教科担任の充実

③中頓別小学校

【事前交流】

- ◎Zoomで子どもたちと事前顔合わせ
 - ・中頓別小学校の昼休みに、児童・担任の先生と自己紹介を行った
 - ・子どもたちと会うのが楽しみになった
 - ・子どもたちの名前を覚えるまでにはなかったが、子どもたちの様子が分かり、不安が軽減された

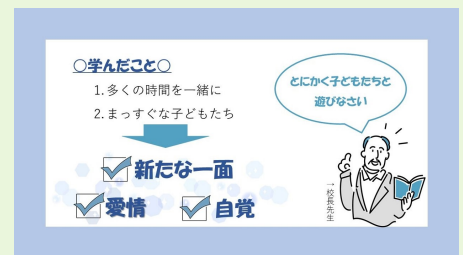


【子どもとの関わり】

- ◎目線を合わせて話すことで、表情が分かり、会話がスムーズになった
- ◎子どもの状況把握や授業の準備などで、時間をかけたことが、充実した実習につながった

【教壇実習】

- ◎児童の取り組みや反応を予想して準備を行った
- ◎どうしたら分かりやすいかを意識し、掲示物なども作成した
- ◎時間配分、学習の流れは想定通り行えたので、初めての授業としては成功と言えそう



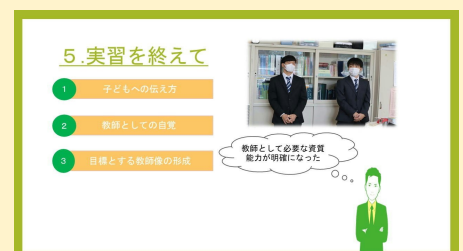
④麓郷小中学校

【麓郷小中学校の特色】

- ◎小学校と中学校が同じ校舎で学ぶ併置校
- ◎週に1回、小学生と中学生全員で遊ぶ全員遊びを行っている
- ◎部活動や少年団活動でクロスカントリースキーに取り組んでいる
- ◎全校で農園活動を行っている
- ◎中学校では演劇活動にも力を入れている
- ◎小学校は全て複式学級
- ◎中学生、小学校高学年の児童・生徒が場面に応じて、それぞれリーダーシップを発揮している

【実習を終えて感じたこと】

- ◎子どもたちに伝わるように言葉を噛み砕いて、目を見て話すことの必要性
- ◎時間を厳守することなど、子どもたちから先生として見られているだけで、教師としての自覚が芽生えてきた
- ◎実習校の先生方のように、常に子どものことを第一に考えるなど、自分になりたいと思う教師像を見つけることができた



⑤上士別中学校

【上士別中学校の特色】

- ◎体育館、図書室などを上士別小学校と共有
- ◎音楽、美術、技術の先生方、複数校を兼務



(次頁につづく)

【少人数学級の授業】

- ◎個に応じた指導ができ、生徒一人ひとりが活躍できる場面が多い
- ◎実験器具やICT機器などが一人ひとりに行き届く
- ◎競争相手が少なく、現状に満足してしまう

【講話：教師を目指したきっかけ】

- ◎どのように進路を選んできたか、どのように将来の夢を決めたかなどを話した
- ◎真剣に聞いてくれ、質問もしてくれた
- ◎自分が発したものに対し、生徒が答えてくれることの嬉しさを知ることができた

6. 講話活動



「教員を目指した理由」について講話を行う！



義務教育学校に向けて

- ・カリキュラム編成
→9年制へ
- ・教室の増設・整備、校舎の増築
- ・新校歌お披露目
- ・教科担任の充実

報告発表の様子

2 講評と感想

【川前副センター長からの講評<概要>】

報告者は何を伝えるかを意識して話し、参加者から質問が出るなど、積極的に参加する姿が見られるとともに、実習での経験を基に実習を振り返って考えたことが伝わってきました。

今回のへき地校体験実習は、参加者にとって、子どもたちの実態、地域との関わりなどを体験することで、主免実習での教科教育とは違った視点で教育を考える機会になったのではないのでしょうか。

ICT機器の活用が重要視されている中、子どもたち一人ひとりの理解状況や能力・適性に応じた個別最適な学びとすることができるのかを考えるきっかけとしてほしいと思います。



▲川前副センター長

【荒川アドバイザーの感想】

発表者が、学校や地域、子どもたちとの関りから学んだことをうまくまとめ、報告していたことはもちろんですが、的確な質問が出てくるなどフロア側も一体となって進められている印象でした。こうした報告会の在り方は、一方的な教え込みを避ける授業にもつながるでしょう。

【加藤アドバイザーの感想】

学んだこと、感じたことを自分の言葉で語っていたことがとても印象的でした。更に、自分は何をテーマにして実習に行き、それに対してどう考えてかという視点もしっかりとされていて大変感心させられました。また、複式学級のみならず、小中併置校や義務教育校への準備を進めている学校など、様々な形の学校の発表を聞くことで私自身も道内の小規模校の状況を知ることができ大変勉強になりました。